千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第42週（10/16-10/22）の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

報告のあった定点数	42週	41週	40週	39週
小児科	18	18	17	18
眼科	5	5	4	5
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	28	27	28
基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市 注意報	10/16-10/22 42週	10/9-10/15 41週	10/2-10/8 40週	9/25-10/1 39週	千葉県 10/9-10/15 41週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	12 0.67	11 0.65	18 1.00	128 0.95
	咽頭結膜熱		2 0.11	3 0.17	2 0.12	7 0.39	27 0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		21 1.17	29 1.61	23 1.35	29 1.61	273 2.02
	感染性胃腸炎		62 3.44	54 3.00	51 3.00	42 2.33	318 2.36
	水痘		4 0.22	6 0.33	2 0.12	6 0.33	31 0.23
	手足口病	↓★	38 2.11	39 2.17	50 2.94	66 3.67	321 2.38
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.17	5 0.04
	突発性発しん		9 0.50	9 0.50	7 0.41	13 0.72	52 0.39
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01
	ヘルパンギーナ		5 0.28	3 0.17	9 0.53	13 0.72	57 0.42
	流行性耳下腺炎		0 0.00	5 0.28	0 0.00	5 0.28	24 0.18
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）	○	5 0.18	1 0.04	3 0.11	4 0.14	25 0.12
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		5 1.00	3 0.60	3 0.75	3 0.60	26 0.74
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	5 0.56
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2　全数報告対象疾患（3件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出
侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原体の検出	－	－	－	－

・第42週は、　結核1件（176）、侵襲性肺炎球菌感染症1件（22）、梅毒1件（26）の報告があった。

※　（）内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数　第42週のコメント

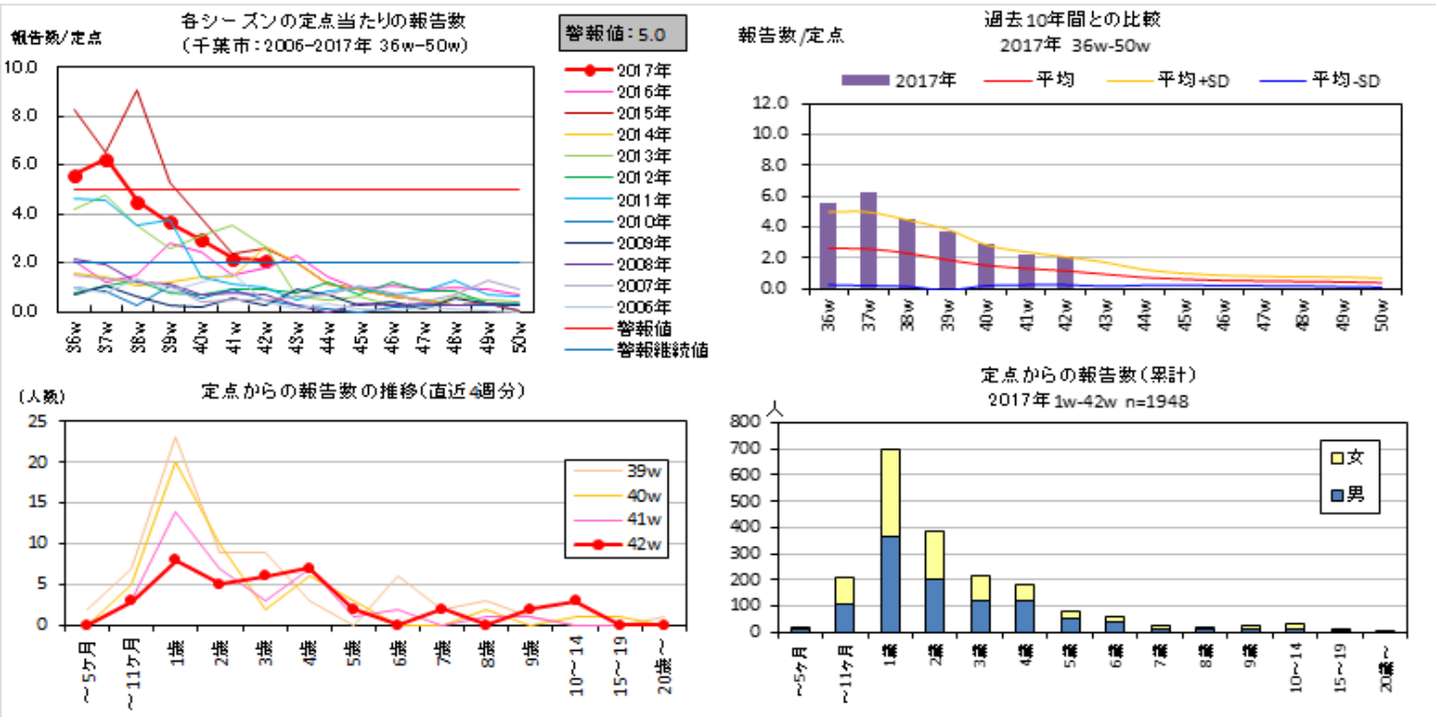
＜手足口病＞前週より若干減少し2.11となったが、流行発生警報終息基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多い。

＜インフルエンザ＞前週より増加に転じ0.18となった。流行開始の目安とされる1.00より少ないが、過去10年の同時期と比べると多め。（2009年のパンデミックを除く）

■ トピック ■

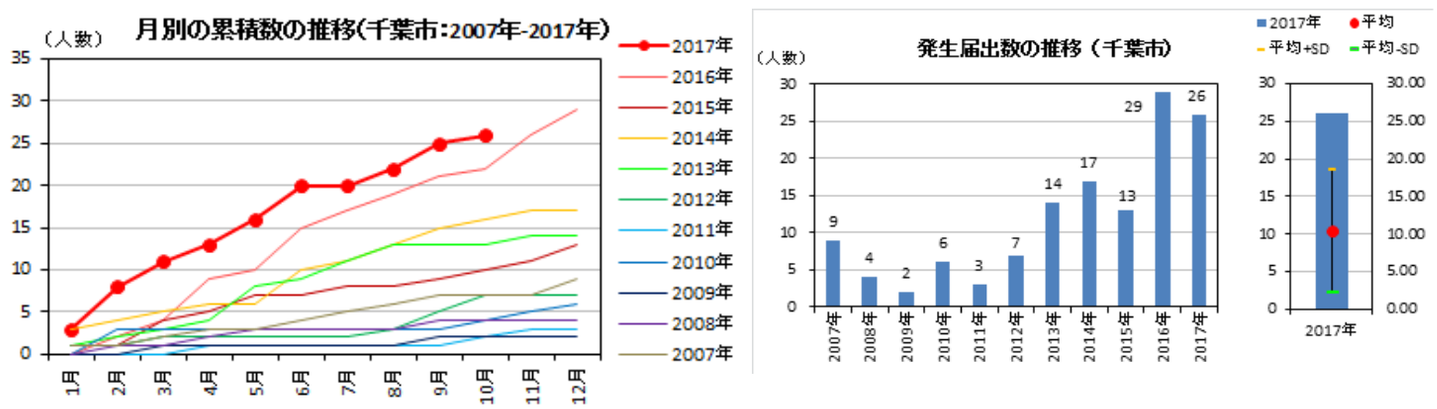
＜手足口病＞

全国レベルの第41週は、前週より減少し、流行発生警報終息基準値（2.0/定点）を下回りました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では栃木県及び佐賀県、福島県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第42週は前週より若干減少し2.11となりましたが、流行発生警報終息基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区（5.5/定点）で流行発生警報開始基準値（5.0/定点）を上回り最多で、同区の1歳、3歳、9歳及び10歳代前半で多く発生報告がありました。他に稲毛区で流行発生警報終息基準値を上回っています。2017年第1週から第42週までの累積報告数（n=1948）によると、性別では男性が54.6%（1064名）、女性が45.4%（884名）で、年齢階級別では1歳（35.9%：700名）、2歳（19.8%：386名）、3歳（10.9%：212名）の順に多くなっています。



＜梅毒＞

全国レベルの第41週の発生届累積数は更に増加し4458件となり、過去10年の同時期と比べると最多で、更に過去10年で最も多かった昨年の4518件に迫る勢いとなっています。都道府県別では東京都、大阪府、愛知県の順で多く報告されています。千葉県の発生届累積数は110件で全国レベルで第9位となっています。

千葉市では2017年第42週に1件の発生届があり、累積数は26件となり、過去10年の同時期と比べると最多となっており、更に過去10年で最も多かった昨年の29件に迫る勢いとなっています。

2017年第1週から第42週までの累積数（n=26）によると、性別では男性が61.5%（16名）、女性が38.5%（10名）で、、年齢階級別では20歳代（42.3%：11名）が最も多く、次いで40歳代（19.2%：5名）、30歳代及び60歳代（共に11.5%：3名）の順に多くなっています。病型別では、早期顕症梅毒Ⅰ期が38.5%（10名）、早期顕症梅毒Ⅱ期が42.3%（11名）、晩期顕症梅毒が7.7%（2名）、無症状病原体保有が11.5%（3名）で、発生原因は性的接触が殆ど（92.3%：24名）で、性的接触の内訳は性交（70.8%：17名）、性交及び経口（20.8%：5名）、経口（8.3%：2名）で、パートナー別では、異性間が79.2%（19名）、同性間が4.2%（1名）、不明が16.7%（4名）となっています。